

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

◎知的障がいのある生徒が就労を通じて社会的自立をめざす学校

- 1 生徒一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばし、健やかな身体と心豊かな人間の育成をめざします。
- 2 実践的な職業教育の充実を図り、仲間と地域の中での学びを通して、主体的に社会に貢献できる人材を育成します。
- 3 知的障がい生徒の就労支援拠点校としてのセンター的機能を発揮し、学校の取組みを発信します。

2 中期的目標

めざす学校像を実現するために専門性向上・人材育成・校内組織の発展的改正等を行いつつ、さらなる充実を目指します。めざす学校像の「知的障がいのある生徒が就労を通じて社会的自立をめざす学校」のさらなる成長発展と、卒業生の職場定着支援を念頭に、卒業後の豊かな生活獲得のための支援体制充実の計画立案を行います。年間計画に基づき、あらためて3年先の学校像を見据える気構えで、全教職員がその主旨と内容を理解して実行に移します。新学習指導要領の考え方を踏まえ、コロナ禍等によって変化する状況に素早く対応できるようにPDCAサイクルとともに、OODA（ウーダ）ループの手法を効果的に活用しながら、絶えず検証と改善を図り下記の「中期的目標」を達成していきます。具体には令和3年度は「スマートスクールモデル校としてICT機器を使用したキャリア教育の推進」令和4年度は「ICT機器を活用したキャリア教育・就労支援の拠点校としての実践を推進」令和5年度には「すべての教育活動でキャリア教育につながる実践の推進」とします。

1 職業学科のある高等支援学校教員としての専門性の確立

- (1) 各教科の視点を大切にしながらICT機器を効果的に活用することで、生徒のキャリア教育に結びつけることを重点にした授業力の向上をめざす
- (2) 支援教育の専門性向上と、すべての教職員が実習先企業等との折衝を念頭に社会人としての資質向上をめざす
- (3) 効率の良い業務推進で、心身共に健康な状況で生徒に接する心構えの育成をめざす
- (4) 生徒の特性把握と個別課題を見つけ、より幅広い適性を高める教育の実践をおこなう

2 地域の知的障がい生徒の就労支援拠点校としての使命を果たす

- (1) 保護者と学校が、すべての生徒が就労実現の進路目標を共有して、企業等への就労率100%を実現する
- (2) 就労支援に関する支援教育のセンター的機能の発揮
- (3) 積極的な広報活動により地域、企業とのつながりを強める
- (4) クラブ活動の活性化と高等支援学校や高等学校との連携、交流をおこなう
- (5) 併置校の難波支援学校との協働を推進し、地域住民や地域学校等との交流を積極的におこなう
- (6) 共生推進教室設置校（今宮高等学校、東住吉高等学校）との連絡・調整に努め、円滑に共生推進教室を推進する

3 地域に貢献できる社会人、職業人を育てる校内組織の充実

- (1) 教職員の見守る力で安心・安全に過ごせる学校環境づくりをおこなう
- (2) 常に進化を続ける「学びと実践の人材」を育成する
- (3) 卒業後の職場定着支援体制の確立と、豊かな生活を実現するために関係機関との連携をすすめる

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 3年 11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒 回収率 97,9% 令和02年度比 4,2%増 保護者回収率 93,6% 令和02年度比 6,3%増 教職員回収率 100% 令和02年度比 増減無 保護者、生徒の回収率が増加。 次年度も生徒、保護者共に95%以上、教職員は100%を目標とする。</p> <p>【学習指導・教育活動】 生徒84,0%、保護者87,0%、教職員88,0%の肯定的な回答率となっている。コロナ禍で様々な制約がある中で「わかる授業」が途切れないことを目標とした。制約の中での工夫は一定の成果を収めたと言えるが、生徒にとって十分な活動ができないフラストレーションは大きい。教職員の「目的に沿って研修に主体的に参加し、成就感を得ることができた」の項目は75,0%と昨年度比6,0%の微増。大阪府教育センター主管等の研修は多くがオンライン形式の研修となったが、それに対して僅かながら対応してきたと考えられる。次年度は、そのこともふまえ主体的に教職員が校内、校外に関わらず研修に参加できる体制づくりと職場環境づくりを目標とする。</p> <p>【生徒指導・生徒理解】 生徒86,3%、保護者88,8%、教職員91,0%の肯定的な回答率となっている。保護者の「学校の生徒指導に共感できる」が前年93,0%から今年度は90,0%に微減した。教職員の「生徒指導方針の共通理解」は73,0%から86,0%に増加している。次年度も引き続き重点項目として努力したい。</p> <p>【進路指導】 生徒89,6%、保護者93,6%、教職員89,0%の肯定的な回答率となっている。生徒は微増、保護者は微減、教職員は微増。コロナ禍のなかであっても、生徒の自立・自己実現達成のため、現場実習先開拓や支援企業・支援者獲得と卒業後の定着支援に更なる努力をする必要がある。</p> <p>【学校運営】 「教職員間の円滑なコミュニケーションにより各業務の目的や方針を共通理解することができた」の項目が86,0%と昨年度から13,0%の増加。今後は会議、行事の持ち方等の働き方改革につながる課題の解消や校内人事の活性化等を考慮して、なにわ高等支援学校で勤務することに誇りを持つ職場づくりにより一層の</p>	<p>第1回（令和3年7月27日実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度学校経営計画および学校評価について コロナ禍中での家庭との連絡体制や、様々な制限がある中で工夫を加えて実施している学習状況等について校長から説明をおこなった。また、学校経営計画については一部実施が困難な状況にある項目も発生する可能性について説明をおこなった。中期的目標に、昨今の未知のウイルスとの戦いが日常生活のなかにある「予測が困難な現状」では、「どんなに先の見えない状況の中でも迅速に意思決定を下し行動に移す」必要から、PDCAサイクルとともにOODAループの手法を効果的に取り入れる趣旨を説明した。委員からは特に質問・意見なく了承された。 令和3年度教科用図書選定について 生徒の特性や実態に応じたものになるように、工夫をしながら教科用図書選定を進めている。今年度使用分のサンプルを閲覧の後、本校の選定について理解をいただいた。 <p>第2回（令和3年12月16日実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内施設設備、授業見学を実施。 令和2年度学校経営計画および学校評価進捗状況、学校教育自己診断の結果と分析について 学校教育自己診断の結果と分析等をお伝えして、コロナウイルス感染症流行の中で様々な工夫をおこないながら授業、行事を実施していること等、学校経営計画の進捗状況について説明した。スクールソーシャルワーカーや学校臨床心理士の効果的な活用等により、重大ないじめ事案等の深刻な状況は発生なく学校経営が進捗していることを報告して、特に質問等なく了承された。新型コロナウイルス感染症流行についてはやや落ち着いた状況があるが、引き続き感染症対策を厳守徹底しながら教育活動を進めていくことを確認した。 令和3年度教科用図書採択について 第1回学校運営協議会で選定について説明をした通り、入学から卒業までを見据えたシラバスを実施する観点からの選定と採択を報告し、特に意見なく承認された。 <p>第3回（令和4年3月1日実施予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度学校経営計画評価（案）について 第2回学校運営協議会にて提示した学校教育自己診断の結果と分析を踏まえて、令和3年度学校経営計画評価（案）について質問と意見を伺った。特に質問や意見はなく承認された。 令和4年度学校経営計画（案）について 令和4年度学校経営計画（案）について、質問と意見を伺った。内容について特に質問や意見はなく承認された。学校経営計画の内容ではないが、職業学科設置の府立高等支援学校の入学者選

府立なにわ高等支援学校

<p>努力が必要である。また、保護者の「学校ではPTA活動が活発に行われている」は64,0%であり、前年度比4,0%減。「授業参観や学校行事に参加したことがある」は85,0%で4,0%増となった。コロナ渦中という特別な状況下であるが、学校と保護者のより一層の協力体制を作っていく工夫が必要である。</p>	<p>抜等について質問があった。守秘義務のある事柄を除いて回答した。 ・学校運営協議会委員によるVRの体験 令和2年度、3年度「府立学校スマートスクール推進事業」で、本校において授業の中で取り組んだVRの視聴を学校運営協議会委員が体験した。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
<p>一、職業学科のある高等支援学校教員としての専門性の確立</p>	<p>(1) 教科の視点を大切にしなが、ICTを活用してキャリア教育に結びつけた授業力の向上</p> <p>(2) 教員の支援教育の専門性と社会人としての資質と意欲向上をめざす</p> <p>(3) 効率の良い業務推進で、心身ともに健康な状況で生徒に接する心構えを育成</p> <p>(4) 生徒の特性把握と個別課題を見つけ、より幅広い適性を高める教育の実践</p>	<p>(1) 教員間の研究授業・研究協議の実施 ア 授業アンケートの実施 イ 授業参観の実施 ウ 人材バンク等外部人材の授業・クラブ等への積極活用 オ 生徒が主体的に興味を持って取り組める教育の実践</p> <p>(2) 教員の支援教育の専門性と社会人としての資質向上や、働く意欲向上をめざす研修や取組の実施</p> <p>(3) 職員間で多様な働き方を認め合い、効率の良い業務推進で働き甲斐のある職場環境を作り、働き方改革を意識して心身共に健康な状態で生徒に接する</p> <p>(4) 個別の教育支援計画、個別の指導計画の充実と活用 ア 生徒自身の適性を知り就労のための高い適応力を育む イ 生徒・保護者のニーズを的確に把握し、就労実現へつなぐ ウ 実践的な職業教育を通じて、高い職業意識を育む エ 企業ニーズにマッチした職業教育の実施 オ 社会貢献活動を通して、自他の存在価値を認めあえる人づくり</p>	<p>(1) 初任者は前後期で年2回以上研究授業実施できたか。またICT機器を授業で効果的に活用できたか。[2回]年間1回以上実施し、振り返りシートを活用したか。[1回]</p> <p>ウ 年2回行い、うち1回は公開授業週間として保護者と地域支援学校等への案内を実施できたか。参加者が30人以上あったか。[未実施]</p> <p>エ 複数人材(SSW、臨床心理士等)を年間15回以上活用したか。[15回]</p> <p>オ 学校教育自己診断における、ICT機器を積極活用して、授業・指導に対する肯定率生徒90%保護者90%以上となったか。[生徒76,0%][保護者84,0%]</p> <p>(2) 「個別の教育支援計画」作成活用や生徒理解等に関する支援教育専門性向上をめざす校内研修(外部講師招聘を含む)を5回以上実施できたか。[4回実施]</p> <p>・認定講習受講等で特支免許保持率95%以上となったか。[年度末保持率90%]</p> <p>(3) 多様な働き方(ズレ勤務等)を職員同士で認め合う職場環境づくりで、職員の働く意欲向上に繋げることができたか。働き方改革を意識し、効率良い業務推進で、ワーク&ライフのバランスを取り、心身共に健康な状態で生徒に接する心構えを作るための職場満足度80%以上となったか。[学校教育自己診断教職員職場満足度74%]</p> <p>(4) 「個別の教育支援計画」を本人・保護者のニーズを踏まえた作成と活用が充実してできたか。[個別の教育支援計画活用研修会年間1回実施]</p> <p>イ 自立活動の充実活性化で、「自己理解シート」を活用し自己肯定感向上と適性把握を実施し、生徒の自立と社会参加に活かされたか。[未実施]</p> <p>ウ 定着につなぐ移行支援計画を作成し、就労先企業の生徒理解と卒業後のアフターフォローに活用できたか。[転職者3名 離職での無職者0名]</p> <p>エ ・企業見学会出前授業等各学年2回以上実施したか。[1回]</p> <p>・年間7回以上の企業等現場実習実施したか。[6回]</p> <p>・アビリンピック等に積極的に参加できたか。[R2度はコロナで中止]</p> <p>オ ・企業ニーズに沿ったICT活用等の職業教育を実施できたか。</p> <p>・学年プレゼンテーション大会等3回以上開催したか。[1回]</p> <p>カ 年間3回以上地域清掃等ボランティアを実施したか。[1回]</p>	<p>(1) ア, 2回実施してICTを効果的に活用した(○)</p> <p>イ, アンケートを1回実施と毎時間シートの活用(○)</p> <p>ウ, コロナで未実施(ー)</p> <p>エ, 年間20回以上活用(○)</p> <p>オ, 生徒82%保護者83%の肯定的回答(△)</p> <p>(2) ・専門性向上に関わる校内研修4回実施(×)</p> <p>・コロナで認定講習等無く特支免許保持率85%(ー)</p> <p>(3) 教職員学校教育自己診断職場満足度回答84%(○)</p> <p>(4) ア, 専門性に関わるどころと就労に結びつく部分の作成の活用に関わる研修が概ねできた(○)</p> <p>イ, 今年度から「自己理解シート」の作成と活用スタート、クラスごとに朝の自立活動の内容を設定(○)</p> <p>ウ, コロナで企業訪問等実施できない時期があった。4期生離職後転職1名支援(○)</p> <p>エ, 出前授業等3回実施(○)</p> <p>・現場実習7回実施(○)</p> <p>・アビリンピックに2名参加金賞1名、銀賞1名(○)</p> <p>オ, ・VRの活用を積極的にすすめた(○)・コロナでクラスでの小プレゼン大会を実施(ー)</p> <p>カ, コロナで1回のみ実施(ー)</p>

府立なにわ高等支援学校

<p>二、地域の知的障がい生徒の就労支援拠点校としての使命を果たす</p>	<p>(1)保護者と学校がすべての生徒就労実現の目標を共有 (2)就労支援に関する支援教育のセンター的機能の発揮 (3)積極的な広報と活動により地域、企業とつながる (4)クラブ活動の活性化と府立高等支援学校間の連携 (5)難波支援学校との協働、地域との交流促進 (6)共生推進教室を、高等支援本校として円滑に推進する</p>	<p>(1) ア 進路説明会等の充実(説明会・学習会・懇談会・企業見学会の開催) イ 保護者懇談会等で教育支援計画の話し合いを持ち、共通理解をはかる ウ 教育活動の発信(学校HP、マチコミメール、PTA・進路・学年通信の定期発行、コミュニケーションノートの活用) (2) ア 地域の中学校、高校、教育委員会等への本校キャリア教育と生徒指導、支援体制等の伝達 イ 地域へ本校の取組みの紹介 (3) ア 創立7年目を迎えた本校の存在を地域資源(法人・企業等)に全教員で積極的な広報活動により職場実習先の開拓 イ 地域への社会貢献と地域資源の活用、活動発信 (4) ア クラブ活動を通じて自己肯定感を高めて、将来への余暇活動活用と職場定着支援に繋げる イ 高等支援学校5校の連携 ウ 積極的に運動系、文科系の活動発表をおこなう (5) ア 難波支援学校、地域保育所、連合町会等と防犯・防災(火災、地震、津波)訓練を共同開催することで併設校や地域と緊密に連携する イ 地域関係学校等との交流をおこなう (6) 共生推進設置校(今宮高校、東住吉高校)との連携をおこない、職業教育に関するスクーリングを円滑におこなう</p>	<p>(1) ア 年間5回以上進路説明会等を実施できたか。[1回] イ 1年生は入学後の懇談会等年間5回以上実施したか。[4回] ・2,3年生は保護者懇談会等年間3回以上実施したか。[2回] ウ 月1回の学校HP更新とマチコミが活用できたか。 ・毎月1回の通信発行(学年通信、保健だより等)ができたか。[HP更新月1回、学年、保健室通信月1回] (2) ア 近隣の中学校、高校、教委、経済団体等への研修会講師派遣等2回以上実施できたか。[派遣無し] イ オープンスクールを実施し、参加者700名以上獲得できたか。[入場制限実施で450名] ・学校説明見学会を実施し、入学志願者を70名以上獲得できたか。[65名 志願者倍率1.35倍] ・職業現場実習報告会等を開催できたか。[未実施] ・定着支援体制に関する研修会と報告が実施できたか。[1回実施] (3) ア 全教員で現場実習受け入れ先、就労受け入れ先企業等(現在約700件)を生徒の状況に応じて活用できたか。[企業等就労率86%] イ 地域支援ステーション等との交流、作品展等に積極参加及び製作物の展示販売等の実施ができたか。[未実施] (4) ア クラブ部活動奨励(週3回)と高等支援学校、高等学校との活動交流を促進できたか。[高等学校と交流1回] イ 高等支援学校リーグ等の積極的立案と参加ができたか。[未実施] ウ 各種大会(近畿・全国大会等出場含む)各種展覧会等への積極的な参加ができたか。[全国大会等すべて中止] (5) ア 行事、訓練、教員研修の合同実施を各年間3回以上、月1回難波・なにわ連絡会議を実施できたか。[会議月1回実施 訓練等未実施] イ 1年生全員が地域人権フィールドワーク等に積極的に参加できたか。[地域小中学校教員も参加で1回実施] (6) 府立東住吉高校、府立今宮高校と連携し、共生推進教室生徒に週1回の専門職業に関する指導と年間1回の校内実習ができたか。[校内実習1回実施]</p>	<p>(1)ア、各学年とも現場実習前後に実施計14回(○) イ、1年5回実施(○)・2,3年3回以上実施(○) ウ、月1回HP更新マチコミを教員保護者へ各種連絡に積極的に活用(○)・各種通信毎月1回以上発行(○) (2)ア、コロナで未実施 (一)イ、オープンスクール中止(一)・学校説明会実施。入学志願者61名(○) ・実習報告会学年ごとに実施(○) ・定着支援報告会2回実施(○) (3)ア、コロナで積極的開拓実施できず。就労率79% (一)イ、子どもたちの賛歌展等へWEB参加をした(○) (4)ア、クラブ活動を制限しながら実施、交流1回実施(○)イ、高等支援リーグ卓球部で12月実施(○) ウ、サッカー部2月の全国大会出場決定後大会中止(一) (5)ア、合同会議年3回に縮小実施。合同訓練等コロナで未実施(一)イ、フィールドワーク等、12月に人権学習を実施(○) (6)本校にて12月に共生推進教室校内実習を実施。設置校教員の学校見学等積極的に障がい理解を推進(○)</p>
<p>三、地域に貢献できる社会人、職業人を育てる 校内組織の充実</p>	<p>(1)教職員の見守り力で安心・安全に過ごせる学校環境づくり (2)常に進化を続ける学びと実践の人材育成 (3)卒業後の職場定着支援体制の確立と、豊かな生活実現を実現するために関係機関との連携</p>	<p>(1) ア 生徒が安心して安全に過ごせる学校環境づくり、啓発活動(校内清潔度チェック、保健発表大会参加等)の実施 イ 生徒・保護者の教育相談の充実を図る ウ 問題行動に対する生徒指導体制確立(見守りによる予防・抑止効果で問題行動を未然防止) (2) ア 人材育成に組織的に取り組む イ ICT活用の徹底で校内情報の共有化と教育活動での活用・実践例蓄積・全体共有を推進する(校務と授業) ウ 創立7年目の諸課題解決に向けての協議を実施するための企画委員会を円滑に運営し活用する (3) ア 進路職業部を中心として定着支援の展開 イ 各種関係機関との連携を実施</p>	<p>(1) ア 教職員、生徒、保護者が一体となって熱中症、感染症の予防等保健衛生管理と啓発活動が実施できたか。[学校保健委員会1回実施、保健研究発表大会中止] ・イジメ・体罰防止の指導(年3回以上のアンケートと研修実施)をおこない、生徒の安心感を促進できたか。[アンケート3回実施、体罰防止等研修会1回実施] ・携帯、メール・ブログ被害の危険性防止講習2回以上実施して適切なSNS活用の指導ができたか。[外部講師で講習会1回実施] ・総合の時間を活用し、年間を通じた仲間づくりをテーマにした授業2回以上実施できたか。[1回実施] イ 外部講師を招聘して生徒対象講習会を実施できたか。[薬物乱用防止講習1回、司法書士出前授業1回] ・研究部と学年が連携し、生徒・保護者に寄り添う教育相談等を実践して、困り感を解消できたか。[SSW活用で随時に校内支援委員会開催] ・困り感のある生徒支援のために、臨床心理士やSSWとの相談体制確立ができたか。[SSW、臨床心理士を活用して随時に相談支援実施] ウ 教員の気づきによる報・連・相の徹底ができたか。[学校教育自己診断教員相談連絡体制満足度89%] ・登下校通学路指導を実施して安全確保ができたか。[学校教育自己診断生徒安全安心満足度83%] ・校内巡視体制で校内安全安心が徹底できたか。[学校教育自己診断保護者安全安心満足度91%] (2) ア 校内初任者の研修相談体制の充実(校内パディシステムや産業医活用、管理職面談等)ができたか。[首席が指導教官となり年間を通してメンタリング実施] イ ICT機器の校務・授業等での活用方法研修会(VR等での自立活動、就労支援活用方法)を年間2回以上実施できたか。[研修会1回実施] ウ 企画委員会月1回以上開催し、校務に貢献できたか。[企画委員会月1回実施 主に教育課程改編等で論議実施] (3) ア 定着支援チームの活用と定着支援期間(4~6月)設定。卒業後1年間職場定着率90%以上をクリアできたか。[定着期間コロナで未実施 年間を通じて転職者3名 離職での無職者0名 3期生定着率100%] イ 就労・生活支援センター、市町福祉部署等との連携(卒業学年になるまでの福祉懇談等の実施実現等)が促進できたか。 [4期生卒業生全員が就労・生活支援センターに登録完了]</p>	<p>(1)ア・コロナで学校保健委員会、保健発表大会書面開催(一)・アンケート3回、研修会1回を実施(○)・適切なSNS使用に関する研修会1回、情報授業等で研修実施(○)・仲間づくりに関する授業1回実施(△) イ、外部講師の講習、授業2回以上実施(○)・年間3回校内支援委員会開催(○)・SSWの活用毎月1回実施(○)・こころの健康相談と連携毎月1回実施(○) ウ、教員相談連絡体制肯定的回答90%(○)・生徒安全安心満足度91%(○)・保護者安全安心満足度85%(△) (2)ア、初任者並びにインターミディエート受講者等の研究授業研究協議実施(○)イ、校内ICT研修会2回実施(○)ウ、月1回ペースで企画委員会実施(○) (3)ア、コロナで企業によっては電話対応等になった(一)イ、特に大阪市内在住生徒は就労・生活支援センター職員と教職員が連携しての在学中と卒業後定着支援構築が強く望まれる(△)</p>